

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年2月13日

【2018年2月3日～2018年2月9日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは対米ドル、対円で下落しました。米国株を中心に世界的な株価下落が続くなか、市場参加者のリスク回避的な姿勢が一段と強まり、ブラジル金融市場では為替が軟調に推移し、長期金利は上昇しました。一方、ブラジル中央銀行の利下げとインフレ率の予想比下振れを受けて、2年国債金利は低下しました。

ブラジル中央銀行は2月7日（現地、以下同様）、政策金利を市場予想通り0.25%ポイント引き下げ、過去最低の6.75%とすることを決定しました。COPOM（金融政策委員会）の声明文では、今後の金融政策運営について、状況が変化すれば追加緩和を行うとしながらも、金融緩和プロセスを中断するのが適切であるとし、利下げ打ち止めを示唆しました。しかし、8日に発表されたIPCAインフレ率が市場予想に対して下振れし、ブラジル中央銀行のインフレ目標レンジ（現行で3～6%）の下限にも達しなかったことから、追加緩和観測が再び浮上することとなりました。

年金改革法案につきましては、テメル大統領ら政府首脳は引き続き2月中の採決実施を目指しているものの、マイア下院議長の発言によれば、法案への支持票は可決に必要な308票に対して250票程度にとどまっている模様です。一部の現地報道では、政府が既に19日の採決をあきらめて28日に延期したとの観測もあるほか、採決が10月の大統領選挙後に先送りされる公算も一段と高まりつつあります。

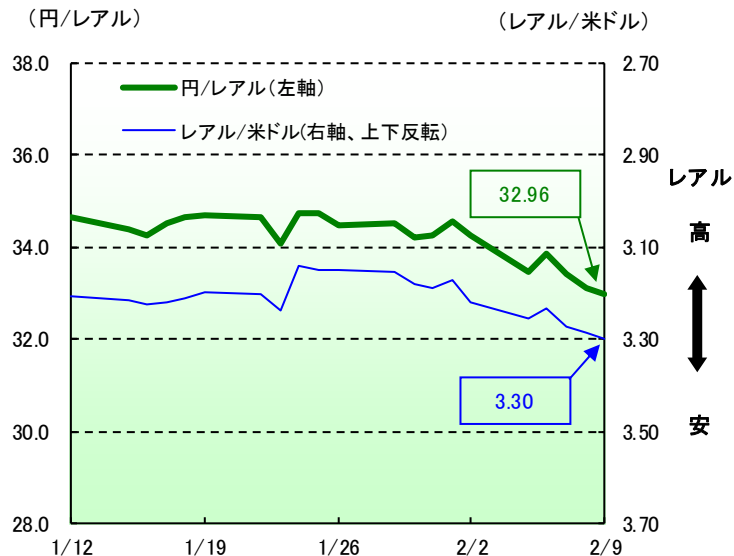
【2】今週の見通し

ブラジル金融市場は12日から13日にかけてカーニバルにより休場となります。また、年金改革法案を巡るブラジル議会の動きも一時的に停滞する見込みです。

経済指標につきましても、重要な経済指標の発表は予定されておきませんが、金融政策に関して15日にブラジル中央銀行が先週のCOPOMの議事録を公表します。今後の金融政策の方向性を探る上で、金融緩和プロセスの中断を示唆したことに関する議論の詳細な内容に注目が集まります。

【ブラジル・レアル 為替推移】

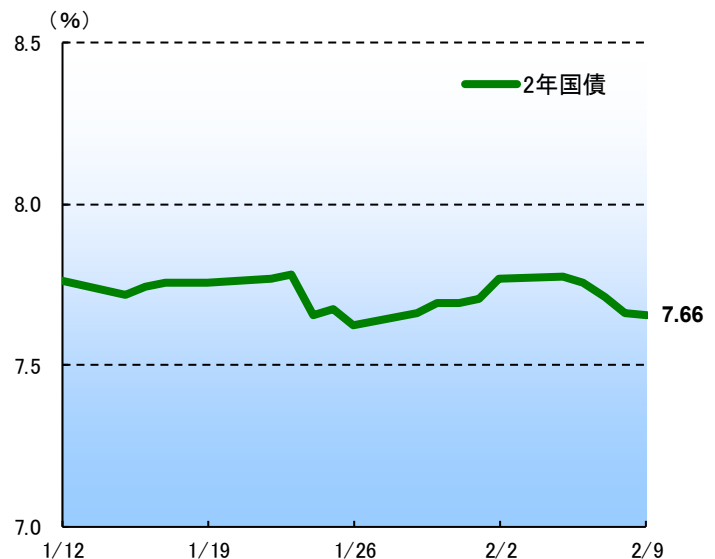
（2018年1月12日～2018年2月9日）



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

（2018年1月12日～2018年2月9日）



（出所：ブルームバーグより大和投資信託作成）

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>